東洋學藝雜誌第三十三號

○加藤先生ノ一大疑問ニ答ヘントス

井上圓了

今疑問ノ條々ヲ左ニ擧グレバ

第一問○土巴爾答及ビ北米土人部落ノ人爲陶汰ヲ以テ實ニ社會ヲ利セリトスルハ當レリヤハタ當ラザルヤ

第二問○近今歐洲醫學ノ大進歩ニヨリテ患者ノ生命ヲ延長スルヨリ起レル人爲陶汰ヲ以テ實ニ社會ヲ害ストヽ云フハ當レリヤハタ當ラザルヤ

余之レニ答ヘテ兩ナガラ當ラズトス今左ノ順序ニツキテ其理由ヲ略説セントス

第一立論三案
- （甲）利害標準
- （乙）利害有無
- （丙）利害事情

總答
- （甲）論理上道理アルモ實際上行フベカラザルヿ
- （乙）二者各々社會進化ノ際其事情ニ適スルキハ皆利アルヿ
- （丙）人爲陶汰法ニ上等下等ノ二種アルヿ
- （丁）汎愛同憐ノ情ノ社會進化ニ必要ナルヿ
- （戊）人口ノ繁殖ヲ制スルハ自然陶汰ニ任スベキヿ

第二問題解答

別答

第一
- （甲）殺兒陶汰ハ高等文明ノ進化法ニアラザルヿ
- （乙）獨リ腕力ヲ養フテ智力ヲ研カザルノ不利ナルヿ
- （丙）一方ノ發達充分ナレハ他方ノ發達不充分ナルヿ
- （丁）躰質ノ强弱ヲ見テ智力ノ多少ヲ豫定スベカラザルヿ

第二
- （甲）醫術陶汰法ハ高等文明ノ進化法ナルヿ
- （乙）醫學從來ノ進歩及ヒ今日ノ實功ノ大ニ社會ヲ利セシヿ
- （丙）醫學ノ進歩今日ニ止ラザルヿ
- （丁）醫學進歩ノ害ハ其利ニ比スレバ少々ナルヿ

第一立論三案○今問題ノ解答ヲ下スニ當リ先ツ左ノ如キ三條ノ論案ヲ前定セザルベカラズ

（甲）余カ論中陶汰法ノ利害ヲ判定スルハ社會進化ヲ標準トスルニ由ル即チ社會進化ヲ助クルモノヲ利アリト云ヒ妨グルモノヲ害アリト云フナリ

(乙)余カ論中利害ノ有無ヲ定ムルハ二者ヲ比考シテ論ズルノミ即チ利ノ害ヨリ多キモノハ利アリトシ少キモノハ害アリトスルニ外ナラズ何者事物一トシテ純一ノ利害ヲ有スルヿナケレバナリ

(丙)凡ソ事物ノ利害ヲ論定スルニハ先ツ其事情ヲ考ヘザルベカラズ昔日利アルモノモ今日必ズシモ利アルニアラズ今日害アルモノモ將來永ク害アルベキノ理ナシ今余カ陶汰法ノ利害ヲ論ズルハ今日ノ社會ニ對シ今時ノ事情ニ考ヘテ云フナリ

第二問題解答○余問題ニ答ヘテ二者共ニ不當ナリトスルノ理由ヲ略明セントスルニ先ツ之ヲ總答別答ノ二項ニ分チ總答ノ下ニテハ一般ニ二題ニ通スルノ理由ヲ與ヘ別答ノ下ニテハ各題ニ特有ナル理由ヲ與フルナリ然シテ又別答ヲ第一第二ノ二種ニ分チタルハ第一ハ第一問ニ對シ第二ハ第二問ニ對スルナリト知ルヘシ

○總答

(甲)殺兒廢醫ノ二者ハタトヒ論理上道理アルモ實際上行フベカラザルヤ必然ナリ何者今日ノ社會ニ對シテ何程殺兒ヲ勸メ廢醫ヲ唱フルモ誰レカ之ヲ用ヰルモノアラン政府ノ命令法律ノ勢力ト雖モ殆ト之ヲ如何トモスベカラザルナリ然ルヲ況ンヤ論理上道理ナキオヤ其理由ハ余カ左ニ擧グル所ヲ見テ知ルベシ

(乙)西巴爾答及ヒ北米土人ノ爲セシガ如キ猛惡ナル陶汰法ハ猛惡ナル社會ニアリテハ啻ニ利アルノミナラズ起ラザルヲ得ザルノ事情アリ之レニ反シテ文化開明ノ今日ニアリテハ病患ヲ醫シ苦痛ヲ除クガ如キ仁愛ノ人爲法起ラザルヲ得ズ而シテ猛惡ナル陶汰法モ仁愛ナル人爲法モ各社會進化ノ際其時ニ應ジ其場合ニ適合スルトキハ皆利アリ然レトモ此二法共ニ何レノ世ニテモ何レノ時ニテモ社會ノ進化ニ利アリト云フニハアラズ故ニ昔日ノ猛惡ナル陶汰法ヲ今日ノ仁愛ヲ主トスル社會ニ用ヰルトキハ其進化ニ害アルヿ明カナリト知ルベシ

(丙)昔日ノ殺兒モ人爲陶汰ナリ今日ノ醫法モ人爲陶汰ナリ二者共ニ社會ヲ進化セシムルノ方法ナリト雖トモ殺兒陶汰ノ如キハ下等野蠻ノ法ナリ醫術治療ノ如キハ上等開明ノ法ナリト云ハザルベカラズ教育政法ノ如キモ又皆上等

ノ人爲法ナリ是レ余ガ人爲陶汰ニ上等下等ノ二種アリト云フ所以ナリ然ラバ今日ニアリテ復タ西巴爾答人等ノ爲セシガ如キ陶汰法ナ見ザルハ社會ノ高等ニ進化シタル好結果ト謂フベシ然ルニ若シ今日ノ陶汰法ヲ廢シテ昔日ノ法ヲ用ヰルニ至ラバ卽チ多年ノ進歩ヲ一時ニ退歩セシムルモノニシテ其不利ナルハ論チ俟タザルナリ

(丁)殺兒陶汰法ノ如キハオノヅカラ殘忍猛惡ナル氣風ヲ養ヒ醫學進歩ノ如キハ大ニ仁慈汎愛ノ情ヲ養フモノトス然ルニ社會ノ進歩ニ關シ一國ノ獨立ニ關シテ最モ必要ナルモノハ人民ノ協力團合スルニアリ協力團合ニ最モ必要ナルモノハ親睦共和互ニ相愛恕スルニアリ是レ醫學進歩ノ利ヲ社會進化上ニ與ヘシ所以ナリ之レニ反シテ殘忍猛惡ノ氣風ヲ養ヒ從ヒテ强弱相食ミ自他相抗排スルガ如キ結果ヲ生ズル人爲法ハ社會ヲ高等ニ進化セシムルノ妨害トナルハ疑ヲ容レザルナリ

(戊)人アリ昔日ノ陶汰法ハ人口繁殖ノ適度ニ過グルヲ防クノ利アルモ今日ノ人爲法ハ却テ之ヲ助クルノ不便アリト云ハンニ余ハ之レニ答ヘテ人口ノ繁殖ヲ制スルハ自然ノ法ナリト云ハザルベカラズ敎育政法ノ如キモ又皆上等陶汰ノ力ニ任ジテ可ナリ敢テ殘忍ナル人爲法ヲ用ヰルヲ要セズト云ハントス何者造化自然ノ勢强弱優劣相陶汰取捨シテ人口ノ分外ニ繁殖スルヲ得ザラシムレバナリ

○別答第一

(甲)何レノ世ニアリテモ野蠻社會ニハ腕力陶汰ノミ行ハレテ道理競爭ノ如キハ絕ヘテ見ザルナリ今西巴爾答人等ノ初生兒ヲ殺スガ如キハ所謂腕力陶汰ノ一種ニシテ强弱互ニ相筋骨ヲ以テ競爭スルニ由ル然ルニ社會ヲ高等ノ地位ニ進化セシムルニハ腕力陶汰ヲ本トスベキカ道理競爭ヲ主トスヘキカ余斷乎トシテ云ハン道理競爭ハ高等ノ進化法ナリト果シテ然ラハ社會已ニ高等ニ進ミタル今日ニ至リテナホ腕力陶汰ヲ主トシテ用ヰルノ不利ナルハ喋々ヲ要セサルナリ

(乙)腕力陶汰ハ野蠻社會又ハ禽獸世界固有ノ陶汰法ニシテ道理競爭卽チ智力陶汰ハ開明世界又ハ高等社會固有ノ進化法ト謂フベシ然ルニ腕力ト智力トハ其關係甚タ密切ナルヲ以テ腕力ヲ離レテ獨リ智力ヲ達スル能ハス智力ナフシテ獨リ腕力ヲ立ツルヿ亦難シ二者互ニ相待チ相持ス

ルモノナレバ社會何程高等ノ地位ニ進ムモ獨リ智力ニヨリテ全ク腕力ヲ用ヰサルヿ能ハサルヘシ然レ𪜈獨リ意ヲ腕力陶汰ニ用ヰテ更ニ智力陶汰ニ注ガザルガ如キニ至リテハ決シテ其當ヲ得タルモノニアラザルナリ西巴爾答人等ノ用ヰシ人爲法ノ不可ナルヿ亦知ルヘシ

(丙)腕力ト智力トハ其性質ヲ異ニスルノミナラズ身躰上其存スル部分ヲ異ニス腕力ハ主トシテ手足筋骨ノ間ニ存シ智力ハ全ク腦裏ニアリ心理學上論スル所ニヨルニ心身ノ關係至リテ密ナリト云フト雖𪜈腦ト手足トハ大ニ其位置ヲ異ニスルヲ以テ一者ヲ發育スルモ必スシモ他者ヲ發達セシムル能ハス且ツ力量一定ノ規則ニヨルニ一方ノ發達其度ニ過グレバ他方ノ發達必ズ完全ノ點ニ達スル能ハザルハ道理ノ然ラシムル所ナリ然ルニ西巴爾答人等ノ如キハ唯筋骨躰格一方ノ發達ヲ主トシテ更ニ他ヲ顧ザルヲ以テ其陶汰法ノ大ニ智力發達ニ害アルハ亦勢ノ免ルヘカラザルナリ

(丁)躰質ノ强弱ト躰格ノ具不具トハ初生兒ノ時ニ已ニ分別スヘシト雖𪜈智力ノ多少ト腦量ノ大小トハ初發ノ時ニ於テハ未タ判定スヘカラス人ノ賢不肖才不才ノ如キハ多年ノ經驗ヲ積ミ日夜ノ教育ヲ重ヲ發達成長ノ後始メテ知ルヘキナリ故ニ初生兒ノ躰質躰格ハ西巴爾答人等ノ用ヰシガ如キ人爲法ヲ以テ陶汰スヘシト雖モ其才智胸力ハ此ノ如キ方法ニテハ決シテ陶汰スヘカラザルナリ試ニ見ヨ世間智力ニ富ミ才能ニ長シタル人ハ却テ躰格完全ナラズ筋骨强大ナラサルニアラスヤ然ラバ躰格上初生兒ヲ陶汰スルノ大ニ智力發達ノ妨害トナルハ疑ヲ容ルヘカラス是レ余カ殺兒陶汰法ハ今日ノ社會ニ大害ヲ與フルモノト論決スル所以ナリ

○別答第二

(甲)今日ノ醫學醫術ハ全ク殺兒陶汰法トハ其性質ヲ異ニシテ獨リ躰質腕力ノ優長ヲ主トスルニアラズ其目的トスル所躰質智力兩者ヲ發達完全ナラシメ又其害毒ヲ防禦除去セシムルニアリ其躰質ヲ防護スルハ一ハ智力ノ生長ヲ進メン爲ニシテ其生命ヲ延長スルモ亦智力ノ成功ヲ充全ナラシメン爲メナリ加之醫學ノ治法ハ大ニ殘忍猛惡ノ陶汰法ト其趣ヲ異ニシテ人ヲシテ仁慈博愛同感同憐ノ情ヲ

長セシムルノ勢アリ故ニ此法タル文化開明高等進化ノ社會ニ適合シタル人爲法ト謂フベシ

(乙)今日醫學ノ進歩ニヨリテ生シタル一二ノ弊害ヲ見テ醫術廢スベシ醫學修ムベカラズト云ハヾ是レ醫學進歩ノ大利アルヲ考ヘズ且ツ其目的ヲ知ラサルノ論ナリ醫學ノ目的トスル所決シテ社會ノ害惡ヲ長シ其不利ヲ期スルニアラサルハ余ガ別ニ證メルヲ要セス而シテ其從來進歩ノ結果ヲ見ルニ實際社會ノ幸福ヲ增進セシハ皆人ノ知ル所ナリ若シ之ヲ疑ハヾ誠ニ野蠻世界ノ醫學全ク開ケサル時ト今日ノ如キ其大ニ進歩シタル時トヲ比考スベシ前後其人民ノ得タル幸福ノ多少果シテ如何ンゾヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ今日醫學ノ進歩ニヨリテ吾人ノ受クル所ノ幸福實ニ大ナリト謂フベシ之ヲ如何シテ社會ヲ害スルノ法ナリト云フテ廢スルヲ得ンヤ

(丙)今日ノ醫學進歩ヨリ生スル一二ノ害ヲ見テ醫學ノ不進ヲ祈ルガ如キハ醫學ノ進歩今日ニ止マルト信ズルモノナラン然レ𪜈醫學ノ進歩決シテ今日ニ止マルニアラス又今日完全ノ地ニ達セシニアラズ歐洲ノ醫學ノ如キハ近今大ニ進歩シタリト雖モナホ其不完全ナルハ勿論ニシテ未タ全ク有功無害ノモノトナラザルヤ疑ナシ然レ𪜈將來醫學愈々進歩スルニ於テハ如何ナル妙理妙術ノ發見スルアリテ有功無害ノ結果ヲ生ズルモ知ルヘカラズ今日ノ遺傳諸病ノ如キモ今後益々其病理ヲ窮メ其病源ヲ探リ他日全ク其根ヲ絶ツニ至ルモ計リ難シ或ハ全ク之ヲ絶ツニ至ラザルモ豫防ノ術愈々密ニ治療ノ法漸ク精クツイニ病毒ヲ全ク他人ニ及ボサヾルニ至ルハ期スベキナリ故ニ今日ノ害ヲ見テ將來ノ害ヲ想スベカラズ

(丁)今日ノ社會ニアリテハ勿論純一ナル有功無害ノモノヲ見ル能ハザルヲ以テ害アリト云フモ利アリト云フモ皆利害相比對シテ定ムルノミ今醫學進歩ノ如キ實際上一二ノ害ナキニアラズト雖モ其利益亦至テ大ナリ若シ其害ト利トヲ較スレバ其利ノ大ナル言ヲ待タザルナリ然ラバ醫學ヨリ生ズル人爲陶汰法ハ今日ノ社會ニ於テ固ヨリ利アリト論決スルヨリ外ナシ且ツ夫レ殺兒陶汰法モ醫術陶汰法モ共ニ社會進化ノ際世間ニ行ハレタル以上ハ多少其時ニ應シテ要用ノ点ナクンバアルベカラズ即チ殺兒陶汰法

ノ古代ニ行ハレタルハ古代ノ事情ニ適シテ社會ノ進歩ヲ利スルヿアレバナリ又醫學ノ進歩ヲ今日ニ見ルハ今日ノ社會ニ適合スル所アレハナリ此ノ如ク二者各々其時ニ應シテ用ヰレバ利益アルモ若シ其時ニ合セサレバ必ズ害アリ果シテ然ラハ殺兒法ノ如キハ今日ニ用ヰレハ大害アルベシト雖モ醫法ノ如キハ今日ノ人爲法ナルヲ以テ之ヲ今日ニ用ヰテ益ナルハ余カ信シテ疑ハザル所ナリ

○

漢字を廢し英語を熾に興すハ今日の急務なり

外山正一

今日我邦の急務ハ何なるヂと問へゝ或は條約を改正〜て治外法權を廢するにありと云ふ者あらん、或ハ外債を募りて熾ゝ鉄道を敷設するゝありと云ふ者あらん、或は佛教を排除〜て耶蘇教を弘むるゝありと云ふ者あらん、或ハ海陸軍を擴張して軍備ヲ嚴重にするにありと云ふ者あらん、或は漢學を熾に興して儒教主義を弘むるにありと云ふ者あらん、或ハ外人に雜居を許〜内外の男女を杂て熾に雜婚せしむるにありと云ふ者あらん、或は民權を弘張し租稅を減少するにありと云ふ者あらん、其他人々の見識に依て今日の急務とする所ハ彼也是なりと千差萬別ならん、蓋し右ゝ擧げたる事共の中ゝは實に今日の急務なるとも固よりあるならん、去りなから余輩の卑見にてハ今日の急務中の急務共云ふべき者ハ漢字を廢するとと我邦人をして西洋語を普通に學ばしむとの二事なり、漢字の不便なるとハ今さら云ふまでもなきを也、特に考ふべきは此不便なる文字ハ我邦に於てハ決て廢する能ハのざる者なるか、斯の如く不便なる文字を用ひ續くるも海外諸邦と能く競爭〜得べきかと云ふ二問題也、余輩の考にてハ第一漢字は決て廢す可らざる者に非ず、第二漢字を用ひ續かんにハ特り外人と競爭せんとの至難ならん而已ならず、竟には邦の存立も覺束なし〜何を以て漢字廢す可らざる者に非ずとするぞと云はんに、我邦人の思想を表さんゝハ漢字より外に方便のなからんには、漢字を廢さんとは固より出來ざるべけれども、既ゝ便利なる假名あり又片假名あり、天下にハ尚ほ便利なる羅馬字の如き者あり、斯る便利なる者のあるからハ漢字を廢すべ

からずとゝ固より云ひ難し、蓋〳〵漢語を表さんには漢字より便利なる者はあらずとは是れ漢字者流の常ゝ口ゝ唱ふる所也、それ或は然らん然りと雖も此説たる我邦にては漢語ゝ多く用ひざるべからず、漢語ゝ益〻增すべき者なりと假定せる者の説なり、然るに余輩は漢語を減少するの必要なるをを見るも之を益〻增加せざるべからざるの理由と見る能ゝざるなり、漢字を用ふればこそ漢語は益〻增加すべけれ假名若くは羅馬字を用ひんには、我國の語は其字を以て表するゝ都合よき者に次第に變遷して益〻之を以て表するをの出來がたき漢語ゝ漸々に跡を絶つに至らんを何より見易きの理あり、我邦ゝ今日迄漢語漢字の行はれたるゝ固より止を得ざる事情ゝ出でたるをなり、何んとなれば我邦古來の開化は專ら支那より來れる者にして制度文物都て何事を論ぜず大概支那に由來せざるゝなく、高尚なる思想は云ふも更なり日常器具の類に至る迄之を彼に採らざる者は甚だ尠なかりゝが故に之を表するの支那語は勢我邦に行はれざるなく、其語を表するの文字ゝ勢我邦人の用ふる所となりたり、且や制度文物道德經濟都て之を支那に採るをなりければ、苟も學者たり物識たらんと欲する者は必ず漢書を讀まざると得ざりしが爲に國の開くるに隨て漢字を讀み書きする者は次第〻に增加せるが故に竟に今日の如き漢字國となりたるなり、それ、我邦の一時斯の如き漢字國となりたるゝ固より止むを得ざりしをなれども、我邦は永久漢字國ゝあるべしとは決て云ひがたし、最初、我邦の開化ゝ支那ゝ採れる者ゝもせよ、久く時を經て既に、我邦の開化ゝ支那の開化と自ら獨立殊別なる者となりたる上にては最初彼の開化を受取る最中の如く漢語漢字の用は甚だ〻き者にはあらざるなり、況や今日の如く我邦の智識は最早之を支那に仰ぐをゝ少しもなけれども、歐米諸國の開化は之をひた眞似ゝ眞似て昔時支那より智識をまる取になしたると同樣に歐米諸國の智識をまるとりゝなさねばならぬ時に當てや、昔時漢語を用ふるをの必要なりし如く、今日ゝ又歐米の語を用ひんをは必要なり、支那の事物は支那の語を以て表するゝ便利なるか西洋の事物の如きも西洋の語を以て表するはチンプン漢語を以て之を表さんより便

利なる者尠なからざるなり、今日西洋諸國を〳〵て西洋諸國たらしむる所の彼の諸學術上に用ふる所の語の如きハ十に八九は我邦在來の語の中にハ適當なる譯語のなき者なり、斯る場合に於てハ直に西洋語を用ふるの便利なるを尠なからず、然るに今の習として西洋語を直に用ふる時は至て分りよき場合と雖も、必ず六かしき漢字を幾字も組合して何だか分らぬ譯語を作るを以て學者の如く思ふ者もあれば、愛國者氣取りで居る者もあり、實に愚の至りと云ふべし〳〵、

漢字を廢さん時は之に替ふるに何を以てせんやと云はんに、今迄の所よては假名にすべきと云ふ者が多くして余の如きも則ち假名の會の一人なれとも、萬全の策は假名よりは寧ろ羅馬字を用ふるにあるならん、如何んせん羅馬字を用ひんと云ふ說を贊成する者の寡きと此說を贊成する者の多からんには余は斷然羅馬字にすべしと云はんとする者なり、羅馬字の便利なるとは大日本學士會院中ふ其人ありと知られたる西周先生が十餘年前に既に證明せられたる如し、特にこゝに一言すべきは羅馬字を用ふる時は西洋語の未だ我邦に適當なる譯語のなき者は直に原語を用ふるに便利なるを之なり

漢字を用ひ續かんには西洋諸國と競爭せんとは甚だ六かゝくして竟よは邦の存立も覺束なしとハ如何なる譯ぞと云はんに、我國は開化の度に於てはるかゝ西洋諸國に後れたる者なれば、彼と競爭せんとは既に至難なるとなるに、若し我にして漢字を用ひ居らんには益々彼に後れ益々彼と競爭せんとは出來がたくなるならん何んとなれバは羅馬字と云ふ最と簡便なる者を用ふるが故に、彼に在てハ智識を得るの道ハ極て容易なりと雖も、我に在ては漢字と云ふ最と六かしき者を學ぶとは何より必要なれば智識を得るの道ハ漢字の爲よ實に壅塞せられたりと云ふべし、されど我が漢字を學び居る間に彼は衛生學を學び得るなり、我が漢字を學び居る間に彼は理學を學び得るなり、我が漢字を學び居る間に彼ハ政治學を學び得るなり、我が漢字を學び居る間に彼は農學を學び得るなり、我が漢字を學び居る間に彼は工學を學び得るなり、斯の如き有樣なれば既に著しく彼に後れたる我ハ彼に追ひつか

ん所ではなく、却て益〻彼よ後れざるを得ざるなり、畢竟に全國に敷設せられんとす、而て鉄道の至る所ハ則ち西

ん所ではなく、却て益〻彼よ後れざるを得ざるなり、畢竟我邦人が漢字を學ばん爲よ多數の年月を費すをを憂へざるい、我邦の開化は如何程西洋の開化に後れて居るか、西洋人と競爭せんをは如何に至難なるかを少も辨知せざるが爲ならん、之をよく辨知〜たらんよい漢字い一刻も速よ廢すべきをを悟らんを疑なし、

次に西洋語を熾ふ興さんをい漢字を廢すると同樣ふ今日の急務なり、今日の如く制度文物百般の事物都て之を西洋に採る際に於ては西洋語に通ぜんをい我邦人に取りて何より必要なり、殊に我邦人を〜て西洋れ事情に通ぜしめんをい今日の急務なり、今日の如く西洋の事情にうとき者の我邦人中に多きは決て悅ぶべきをにあらざる也、西洋の事情にうとき者は西洋人の恐るべき者なるをを知らざる者なり、西洋人の交るべき者たるをを知らざる者なり、國權の振はざるをを慨かざる者なり、國產の興らざるを憂へざる者なり、かるがるしく西洋人を悔りて却て恥辱を取らんとする如き者なり、彼を籠絡せんと〜て却て失敗を取らんとする如き者なり、且夫れ今や鉄道い將に全國に敷設せられんとす、而て鉄道の至る所い則ち西洋人の至る所なり良しや内地雜居を許さるこをあきも鉄道敷設の爲よ我邦人と西洋人との交際は非常に劇くなるならん、此際に當て彼の事情にうとき者い勢彼の爲に籠絡せられざるを得ざるなり爲に我邦人の被る損害は決て少々にあらざるならん是等の點を考へ見るよ我邦人を〜て西洋の事情に通ぜ〜めんをは實に今日の急務なり、既に彼の事情ふ通ぜんをは今日の急務なりとせば、其方法を考案せずんばあらざるなり蓋〜彼の事情に通ぜんよは彼の國に渡航し制度文物宗教風俗等を親く觀察するに如くはあらざるならん、然れども是はこれ特り少數の人に在て能く行ふべくして多數の人にい行ふべからざるをなり、多數の人ふ行ふべきは西洋語に通ぜしめて彼の書籍並に新聞紙雜誌等を讀ましむるより外いあらざるなり、是則余輩が我邦人を〜て普通に西洋語を學ばしむるをの必要なるを說く所以なり、而テ我邦人の西洋語を學はんをい今日の急務なりとせば、隨て起る所の問題は我邦人の普通に學ぶべき洋語は佛語なるべきか、獨語なる

べきか、英語なるべきかと云ふ問題なり、蓋し佛語に限る樣に云ふならん、獨逸主義に深醉したる者は、獨逸語に如く者はなしと云いん、英吉利斯贔負の者は英語にさへ通ぜんにい如何なる專門家と雖も他の語は一切之と知らざるも少しも差支なき如く云ふならん、余輩の考い斯る人々の考とは大に異なるなり、苟も高尙なる學問を研究して學者たり研究者たらんと欲する者に在りては獨逸語い固より之を學はざるべからず、特り獨逸語を學ばざるべからざる而已ならず佛語も英語も亦之を學ばざるべからざるなり今日一學科を修めんとする者に取りてい英佛獨三國の語に通ぜんをは實に必要なり、若し三國の語を學ぶに違なき者い是非とも二國れ語よい通ぜざるべからざるなり、然れども一般の知識を增し西洋の事情よ通ぜん爲には英佛獨三國の語の中其一よ通ぜんには固より充分なり、而て斯る目的の爲に普通教科中の一として學ばんに無論英語に如く者はあらざるならん、斯く云ふを聞きて一概に余を以て英僻なる者とな思ひそ、斯く云ふは固より確實なる理由のあるが爲なり、第一英語い佛語若くい獨逸語より遙に學び易き語なり、第二英語は世界中最も多數の人の使用する語にして、殊に英米二國人の語なるが故ふ英語に通ずる時い歐洲一大國の書を讀み、其智識を受け、其事情に通ぜんをの出來ん而已ならず、米國の書を讀み米國の智識を得米國の事情に通ぜんをの出來んの者なり、第三英語い東洋にてい殊に專用せらるゝ語なるが故に東洋にては如何なる國の人と交接するにも英語を解し得る時い差支なからん第四我邦に住居する西洋人中最も多數なるい英人にして外人との交際中最もはげしき者い則ち英人との交際なれば英語に通じ英人の事情よ通ぜんをは我邦人に取りて最も要用也、第五英佛獨三國の人民中最も着實なる者は英人なれを我邦人をして着實なる思想を起さしめんと欲せは、之をして獨逸書を讀よしむるにあらず、之をして佛書を讀よしむるにあらず、之をして英書を讀まーむるにある也、第六英米人は佛獨人に比して道德大に優る者也道德の爲を思へば英米の書を讀ましむるよ如かざるなり、第七崇神の心の深きは英米人にありとするか將た佛獨人よありとするか、英米人よ崇

より確實なる理由のあるが爲なり、第一英語ハ佛語若くにありとするか將た佛獨人はありとするか、英米人は崇

神の心の深きをは天下の公認する所也、我邦人をして神佛を崇尊する心ろ强からしめんと欲せは佛獨の書は最も忌むべくして英米の書は甚だ好まゝき者也、此等數個の理由あるが故に普通教科として我邦人の廣く學ぶへき語は英語に限るを疑なし、以上陳ぶる如く余輩の考にては今日の急務と漢字を廢するとと我邦人として普通ゟ英語を學ばしむるとの二なり、而て漢字に替ふるに最上の者は無論羅馬字なれども、今日ハ此説を唱張する者甚だ尠なきが故ゟ羅馬字ゟ行はれざる限は假名の會を贊成してせめては假名にても爲すべきなり、去なから假名にまれ羅馬字にまれ之と漢字に替へんには漢字雜りの文章を教授すると同時に假名なれ羅馬字なれ其漢字に替へんとする所の字と以て綴りたる文章小學生徒に教授して讀み書きせゝむるとこそ必要なれ、斯く爲さんゟは今の童兒の人と成らん頃にハ漢字を廢さんとも難ゟあらざるなら ん、又我邦人をゝて普通に英語に通せしむるは今日の急務なりとせば普通學科中に之を加へて熾に之を教授せんをこそ願はゝけれ、若し教師に乏しとせゞ各府縣ゟ英語學校を設立し英米人を雇ひ我邦の英語に熟達せる者と力を協せて英語教師を仕立てしむべきなり、此事たる固より多の金額を要するとなれども事の重大なると思へば、他の費用をはぶきても是非共此事は行はざるべからざるなり、我邦の今日の有樣に滿足し、高枕ゟて安眠せんとする如き者は、漢字を廢さんとも、英語を興さんとも共に今日の急務なりとハ思ハさるならん、斯る輩ハ余の論と以て空想に屬する者と爲すならん、余は空想論者の名を固より厭はざるなり、余の論ハ空想に屬さゞるとを悟るべき日ハ必す至るべければなり、

○

理學之説

菊池大麓述

是レハ去ル六月八日大日本教育會ニ於テ演説シタルモノヲ其ゝ〻ニ筆記シタルナリ

副會長及來會諸君、私ハ今日本會ノ總會ニ於テ諸君ニ對シテ演説ヲ爲スヿハ實ニ榮譽ト存ス然ルニ是マテ此席ニ於テ演説ヲナサレタル諸先生ハ皆各其專門ノ學科ニ關スル事ヲ述ラレタレ𪜈私ノ專門タル數學ハ一般ノ聽衆ニ對シ

テハ演説シ得可キ事甚少シ故ニ今日ハ理學一般ニ付テ私ノ平生思ヒ居ル事ノ大略ヲ述ル積ナリ何卒半時間程御耳ヲ拜借仕リタシ

抑理學トハ何ソヤ理學トハ人ノ知識ノ最高度ナリ凡テ人ノ知識ハ最初ハ漠然、不確、狹隘ナルモノニシテ漸々進ミテ精密、確實、廣遠ニ及ホスモノトナルナリ而シテ其最確實、精密、廣遠ナルニ至リテ始メテ理學ト稱スルナリ例ヘハ石ノ地ニ墜ルコトハ誰モ知ルコトニシテ通常ノ知識ナリ然レ𪜈唯石カ地ニ墜ル丈ケニテハ甚漠然、狹隘ナリ而シテ之ヲ測リ石ハ一「セコンド」ニ何尺墜ルヤ其速率ハ何如等精密確實ノ知識ハ即理學ノ部分ナリ益此知識ヲ推シ廣メ遂ニ萬物引力ノ定則ヲ知リ之ニ由リテ以テ彼ノ海王星ノ發見ニ於ケル如ク未タ曾テ見サル星ノ位置ヲ推測シ得ル如キハ是レ最高等ノ理學ナリ又木ノ燃燒スルハ何人モ知ルコトナレ𪜈其時ハ木ノ炭素何分ト空氣ノ酸素何分ト和合シ何程ノ熱ヲ發スルヤ又此燃燒ニ由リテ何如ナル物ヲ生スルヤ等ハ精密確實ノ知識ニシテ即理學ナリ

理學ハ概子斯ノ如キモノナリ其効用ノ如キハ已ニ諸君ノ善ク知ラル、所ニシテ今別ニ喋々スルニモ及ハサル所ナリ然レ𪜈世ニハ理學ト理學ノ應用トヲ混雜スル者有リ私ハ或ル新聞カ雜誌カニ左ノ如キコトヲ記シタルヲ見タルコアリ曰ク理學ハ世界中米國ニ於テ最盛ナリ見ヨ電信機傳話機電氣燈等ハ米國ニ於テ最盛ナルニ非スヤト是即チ理學ト其應用トヲ混雜シタル者也電信氣電氣燈等ハ理學ノ應用ナリ先キニ已ニ純正ノ理學者有リテ電氣ノ流動等ノ理ヲ研究シタルニ有ラサレハ百人ノエヂソン千人ノベル何十人ノモ―ス有リトモ能ク之ヲ應用シタル電氣ノ機械ヲ發明スルヲ得ンヤ昨年米國理學奬勵會ニ於テ有名ナルロ―ランド先生ハ米國人ノ理學ト理學應用トヲ混雜シ其理學ヲ等閑ニスルコトヲ嘆シタリ吾邦ノ新聞記者中ニ上ノ如キ事ヲ言フモノ有ルモ亦驚クニ足ラサルナリ世人ハ理學者ノ研究直ニ實用ニ係ラサレハ「彼ハ學者ナリ」トテ幾分カ嘲ヲ含ミ其迂遠ヲ笑フカ如シ然レ𪜈斯ク迂遠トシ此世ノ中ノ事ニ殆關係ナキカ如ク見做ス所ノ研究ヨリシテ世界ニ及ホシタル實益ハ甚タ大ナリ今日マテ世界ノ進歩其源ヲ此ノ尋常世人ノ迂遠トシテ嘲リ笑フモノニ取ラ

サルモノハ殆ト希ナリ現今電氣應用ハアラゴ、オエルステット等ノ迂遠ナル研究ニ基カスシテ得可ケンヤ近頃マテ電氣ノ應用ナカリシハ其源タル電氣學ノ近頃マテ進マサリシカ爲ナリ猶ホ電氣學ノ進ムニ從テ其應用ハ彌盛大ナル可シ又獨乙ノ醫學博士コーホハ近頃コレラ病ノ「バクラリヤ」ヲ發見シタリ此發見ノコレラ豫防法及治療法ニ及ホス影響ノ極テ大ナルヿハ明ナリ然レ𪜈此發見ノ源泉ハ迂遠ナル學者輩ノ「スポンテニオス、ジェネレーション」即生物ハ無生物ヨリ發生スルヤ否ノ迂遠ナル大疑問ニ在リ又此ニ「エネルジー」ノ保存ト稱スル迂遠ナル理有リ世ノ實地家之ヲ知ラサルカ爲メニ時間ト財産トヲ浪費スル「少カラサルナリ理學者ハ唯宇宙間何ニテモ眞理ヲ發見スルヲ目的トシ其實地ニ効用有ルヤ否ヲ問ハスト雖眞理ヲ發見シ知識ヲ廣ムルハ一トシテ早晩實地ノ利益ヲ生セサル「ナシ却テ之ヲ迂遠トシテ嘲リタル實地家ノ事業ヨリ何倍ノ實益ヲ生スルヤ是レ既往ニ徵シテ明々爭フ可カラサルナリ世ノ實地家ハ學科ノ緩急、研究ノ迂遠ナルカ實用有ルカ等ニ付テ漫ニ言ヲ放ツヲ謹マサル可ケンヤ

サテ此ヨリハ少シク理學教授ノ「ニ付テ申シ述シントス理學ヲ教ユルニ善ク事實ノ知識ヲ與ヘ文字上ノ知識ニ止ラサル樣ニ注意セサル可カラス文字上ノ知識ハ眞正ノ知識ニ非ス有益ノ知識ニ非サレハナリ例ヘハ空氣ハ酸素幾分ト窒素何分ヨリ成ルト云フ「ヲ記臆スル丈ケニテハ是レヲ眞實ノ知識トハ稱シ難シ先酸素ハ何如ナル物ナルヤ實物ヲ示シテ說明シ其存在スルヤ否ハ何如シテ發見ス可キヤ等一々試驗ヲ以テ生徒ニ示シ又窒素ニ付テモ同樣ノ「ヲ爲シ夫ヨリ空氣中ニ二者ノ存在シ又二者ヲ適當ニ合セハ空氣ヲ生ス可キヲ一々試驗ヲ以テ指示シ而シテ後生徒ハ眞ニ空氣ノ成立ヲ知リタリ此知識ハ眞ノ知識ナレハ生徒ハ之ヲ應用ス可キ場合ニ於テハ能ク之ヲ應用スヘケレ𪜈唯書物ニ載セタルヲ讀ミ或ハ教師ノ言ヲ聽キタルノミニテ之ヲ記臆シタリトモ唯言語上ノ「ニ止リ何ノ益モナシ凡テ理學ノ精神ハ明了ニ証據ヲ見ル可キ事ノ外ハ一モ信ゼサルニ在リ西洋各國ノ進步ハ一ニ此精神ニ根據スト云フ可シ西洋ニテモ此精神ノ行ハレサリシ間ハ更ニ進步ヲ見サリシナリアリストートルハ「重キ物ハ輕キ物ヨリ

早ク地ニ墜ル」ト言ヒタリシカ一千年ノ久シキ絶ヘテ之ヲ實地ニ試ル者ナク唯々トシテ之ヲ信シ來リシカ漸クガリレオニ至リテ之ヲ試ミ直ニ其謬言タルヲ發覺シタリ大家ノ言ハ其果シテ眞實ナルヤ否ヲ試驗セスシテ之ヲ信シ若シ其言右ノ例ニ於ケル如ク虛ナル片ハ之ニ基ケル學問ハ決シテ確實ナル能ハス其進歩セサル固ヨリ當然ナリ知識ノ進マサルハ決シテ怪ムニ足ラス理學ノ現今ノ地位ニ至リタルハ全ク此精神ニ由ル人心學、社會學等ニモ此精神ノ入ラサル間ハ確實ナル進歩ナカル可シ東洋ニ於テハ此精神ハ殆全ク無シト言フモ可ナリ然レ片此精神ヲ盛ニシ何如ナル大家ノ說ナリ片何如ナル聖人ノ言ナリ片確然タル証據ナケレハ之ヲ信セヌ樣ニ成ラサレハ進歩ハトテモ覺束ナシ故ニ理學ノ敎育上ニ有効ナルハ唯其事項ヲ知ルノ實益ノミニ非ラス大ニ此ノ如キ精神ヲ少年ニ與フルニ在リ然ルニ此理學ヲ少年ニ敎ユルニ當リテ唯空氣ハ酸素ト窒素ヨリ成ルトカ又ハ太陽ノ面ニ黑班有リトカ云ヒテ其何如ナル物ナルヤヲ示サス或ハ之ヲ信ス可キ理由ヲ說カスシテ夫ニテ天文學ヲ敎ヘタリ化學ヲ敎ヘタリト思フハ所謂席上ノ水練ヨリ愚ナルヿニシテ是レ程理學ノ精神ニ反シタルヿハ有ラシ日本ニテハ昔ヨリ漢學入込ミ書物サヘ讀メハ之ヲ學者ト稱シ來レリ今ニテモ尙ホ然リ化學書ヲ讀メハ忽チ化學者動物學書ヲ讀メハ動物學者物理學書ヲ讀メハ物理學者ト云フナリ書物ヲ讀メハ成ル程學者ハ學者ニ相違ナケレ片是レ語學者ノミ漢書ナレハ漢學者英書ナレハ英語學者ナリ昔シ漢學ノ盛ナリシ時ハ漢學カ出來ヲハ學者トハ言ハサリシトナリ又私ハ昨日東京數學物理學會ニ於テ或ル人ヨリ聞タルニ昔日算術家ハ無學ナリト嘲ケラレタリト夫レハ何故ト云フニ數學ヲ修ムルヲ以テ充分ニ漢學ヲ修ムルノ暇ナカリシカハ漢學ヲ知ラズト云フヿナリ誠ニ奇怪ナルヿナラズヤ漢學ヲ修メス片數學ヲ修メタレハ實ニ立派ナル學者ナリ是レ蓋シ學者トハ書物ヲ讀ム者ト心得タルヨリ起ルヿナリ此流風現今ハ果シテ失セタルヤ否諸君請フ之ヲ判セヨ

若シ事情有リテ試驗ヲ施シ實物ヲ示ス能ハサル時ニ當テ已ヲ得ス言語ノミニ由リテ理學ヲ敎ユルモ敎課書ノ主意ヲ重トシ成ル可キ丈ケ生徒ノ平常親シク知ル所ノヿヲ取

テ反覆之ヲ説明スレハ是レ頗ル益ナル可シト雖ども私ノ聞キタルニ甚敷ニ至リテハ教課書ヲ取リ其文字ヲ論シ言語ヲ講スルニ止ルヿ有リ例ヘハ此ニ電氣ト云フヿ有レハ電氣ノ何物タルハ之ヲ舍キ電氣ノ電ノ字ハ雨冠ニテ雨ニ緣有リ詩經ノ何章ニハ何ト有リテ誰先生カ何ト解シタトカ易ノ何ノ卦ニハ何トアリタリトカ又電氣ノ氣ノ字ハ空氣ノ氣ノ字ト同シ意味ダナヅト説明シテ夫デ電氣ノ事ヲ講釋シタリト心得ル人モ有リトカマサカニ左樣ノヿハ有ルマシト信スレども若シ實ニ然ルヿ有ラハ言語ニ絶ヘタル事共ナリ斯ノ如キヿ有ルハ漢字ノ弊風ヨリ來リタルモノカト疑フナリ

此ニ又一ノ大困難ナルモノハ漢字ナリ上等小學位ノ生徒ハ未タ其教課書ヲ自由ニ讀ム能ハス其文字ニ困ム實ニ甚シク近頃ノ教課書ニ於テハ別シテ著者ハ成ル丈ケ畫ノ多キ字ヲ用テ已ノ學識ヲ示サントカ欲スルカ如シト聞ケリ此弊ハ全ク漢字ヲ廢スルニアラサレハ到底救フ可カラス今私ノ漢學ヲ廢スルトカ云ヘルハ決シテ漢學ヲ日本ヨリ逐攘フトカ云フニ非ラス漢學ハ貴重ナル學科ナリ西洋諸國ノ羅甸希臘ニ於ル如ク一ノ專門トシテ存シ置ク可シ唯一般ニ漢字ヲ用ルヲ廢シタシトノ意ナリ夫レ人ノ腦力ニハ限有リテ勉强サヘスレハ何程ニテモ進ムモノナリトハ大ナル誤謬ナリ腦力ノ働キニ限有リテ其限ヲ超ス能ハサルハ一升入ノ器ニハ一升ヨリ容ルヽ能ハサルト同一ノ事ナリ無理ニ之ヲ結メ込メハ溢ルヽカ或ハ器ヲ破リ腦病ヲ生ス故ニ昔シ漢學ノ外學問無カリシ時ハ一升丈ケノ漢字ヲ詰込ミテ宜ケレども今日ハ數學物理學化學ナソト總テノ人ニ取リテハ漢學ヨリモ數倍有益ナル充分六ケ敷學科ノ澤山有ル世ノ中ナレハ僅ニ學問ノ道具ナル語學ハ成ル丈ケ少クセサル可カラス故ニ無クテモ平常ノ事ノ足ル漢學ハ之ヲ廢棄ス可シ之ニ貴重ノ時間ヲ費ス可カラス時間ノミナラス限有ル腦力ヲ浪費ス可カラス漢學ヲ修ムル丈ケハ他ノ學科ヲ修ムル害ニナリ强テ之ヲ修ムレハ爲ニ腦ヲ傷ルヿ必定ナリ傷レタル腦ヲ以テ如何シテ今日競爭ノ激烈ナル世界ニ立ツヲ得ンヤ又此レカ爲ニ次世代ノ人ノ身躰ニ何如ナル害ヲ及ホスヤ計ル可カラス故ニ漢字ヲ廢スルハ今日ニテハ一日モ猶豫ス可カラサル急務ナリト思ハル

説カスシテ天文學ヲ教ヘタリ化學ヲ教ヘタリト思ヲ重トシ成ル可キ丈ケ生徒ノ平常親シク知ル所ノヿヲ取

以上述ヘタル事ヲ更ニ約略シテ言ヘハ私ハ理學ヲ教授スル者ハ事實ノ知識ト文字ノ知識トヲ判然ト區別シ事實ノ知識ヲ生徒ニ與ヘンコヲ切ニ望ムナリ故ニ教師ハ成ル可キ丈ケハ教課書ニ依ラズ各地ニ於テ異ナレル最近接ノ例ヲ取リ或ハ平常其地ニ顯ハル、現象ヲ取テ理學ノ道理ヲ適切ニ説明シ生徒ノ平常何事ニモ之ヲ當ル樣ニ誘導スルコヲ希フナリ

又稍之ト關係有ル一事有リソハ外ナラス職工學校商業學校農學校等實地職業ヲ教ユル學校ニ於テ理學ヲ教ユルハ常ニ其生徒ノ目的ヲ認メ善ク其學科ノ何如ナル部分カ最之ニ近切ノ關係有ルヤヲ考ヘ其應用ヲ示シテ教授セサル可カラス今農學ニ就キテ一ノ例ヲ擧ケン農學生徒ニ純正化學ヲ詳細ニ教ヘタリ氏唯之ノミニテ生徒自ラ之ヲ應用シテ其職業ニ大ナル實益ヲ得ルニ至ルコハ甚タ覺束ナシ勿論純正化學モ一通リハ之ヲ教授セサル可カラスト雖是ハ唯其應用ヲ解シ能フマテニ止リ直接ニ其應用ヲ講セサル可カラス又其應用モ各地方ノ地味等ヲ考ヘ之ニ從テ最其地方ニ適ス可キモノヲ講スルコ必要ナリ唯化學ハ農學ニ肝要ナリト言フモ其肝要ナルノ點ヲ講セサレハ生徒ハ自ラ之ヲ見ルノ度ニ進マサルヲ以テ欺カレタルノ感有ル可シ之レ生徒ニ對シテハ教師タルノ任ニ負キ理學ニ對シテハ之ヲ迂遠ナリトノ誹リヲ受ケシメタルノ責有リ

終リニ至テハ私ハ教課書ニ付テ一言申タシ西洋ニテモ理學初歩ノ教課書ハ甚困難ノコナリシ其學科ニ達シタル人ハ自己ノ研究ノ爲メニ他ヲ顧ルノ暇ナク或ハ初等生徒ノ力ヲ知ラス或ハ己ノ品位ヲ墜サンカト恐レ初歩ノ教課書ヲ著サヽルヲ以テ眞ノ理學ヲ知ラス其精神無キ者之ヲ著シタリ然レ氏現今ニ於テ其不可ナルヲ覺リ夫ノ「サイエンス、プライマー」ノ如キハ各其學科ニ於テ一等ノ地位ヲ占ル大學者之ヲ著シタリ日本ニ於テモ教課書ハ餘程ノ改良ヲ加フ可キ地有リト信ス獨初等ノ教課書ノミナラス高等ノモノニ於テモ亦然リ諸君見ラレヨ蛙一疋解剖セシコ無キ者カ動物書ヲ著シ一ノ試驗モ爲シタルコナキ人カ化學書物理書ヲ著シ數學ヲ識ラヌ人カ蒸氣機關論ヲ著ス等何如シテ善良ノ書ヲ得可ケンヤ又教課書ニ飜譯ハ多クハ不都合ナリ原書カ何程善良ナルモ其之ヲ説クヤ西洋ノ生

徒ノ爲ニ說明スルモノナレハ多クハ日本ノ生徒ニ適切ナラス故ニ之ヲ其マヽ譯スルキハ其譯文ハ如何ホド良好ナルモ教課書トナシテハ其精神タルノ要點ヲ欠タ可シ故ニ教課書ハ各學科ニ於テ秀拔ナル學者ニ依托シ能ク事情ヲ察シテ日本ニ適切ナルモノヲ著サシムルヲ肝要ナリトス是レ今日ニ在リテ猶豫ス可カラサル一大事件ニシテ其任ニ在ル者當サニ務ムベキ急ナリ

以上ハ私ノ平素心ニ蓄タルヿヲ述ヘタルマテニシテ固リ新奇ナルヿニアラス諸君ニモ必ス同樣ノ感アリシヿナラント思ヘリ然ルニ諸君ノ能ク堪ヘテ高聽ヲ垂レラレタルハ深ク謝スル所ナリ若シ謬見ナリト思ハル、ヿアラハ幸ニ教示アランヿヲ希フ

○

動物分類ノ方法

明治十七年五月九日大日本教育會ニ於テ演說ス　東京大學教授箕作佳吉

余ハ今日動物學ヲ教授スルノ方法ニ就キ聊カ演述セント思ヒタレ𪜈是ハ余程六ケ敷問題ニテ容易ニ說明スヘキニアラス余ノ卑見ヲ喋々スルモ憚ル所ナレハ是ハ先ツ差措キテ今一ノ別問題ニ涉リ暫時諸君ノ高聽ヲ煩サントス若シ動物學ヲ教授セラル、諸君ノ參考トモナラハ余ノ幸ヒ甚シサテ諸君知ラル、如ク動物學ヲ學フニ甚タ困難ナルハ動物分類ノ一定セサルナリ凡ソ何書ナルニ關セス若シ二部ノ動物書ヲ比較スレハ其分類法ニ於テ必ス多少ノ差アリ――コルソン、ハクスレ――、パツカルト、クラウス等動物學者ト云ヘル動物學者ハ皆ナ各自己ノ說アリテ動物ノ分類實ニ種々樣々ナリ近頃我邦ニ於テ陸續出板ニナル數多ノ動物書モ多分ハ飜譯ナレハ原書次第ニテ各異ナリタル分類法ヲ用ヒ撿スル書毎ニ一種固有ノ法アルカ如シ實ニ此學ヲ學フ者ノ困難ニシテ不便ト云ハサル可ラス或ハ諸君ノ內ニテ疑ヲ起シテ動物學ハ其基礎トモ稱ス可キ分類法ノ此ノ如ク混雜ナルヲ其儘ニ差置クハ其學ニ從事スル人ノ不注意ニシテ餘リ意氣地ナキコトナラスヤ動物學者ノ此ノ如ク各自ノ說アルハ全ク我儘勝手ニ分類ヲ弄フヨリ起ルヤ但シハ此ノ如ク複雜ナルモ其內ニ自ラ動物學者ノ一致シタル定規トモ稱スベキ者アルヤ動物ヲ分類スルニ何ニカ各學者ノ承知シタル規則ノ如キ者アリヤト問

其地方ニ適ス可キモノヲ講スルヿ必要ナリ唯化學ハ農學不都合ナリ原書カ何程善良ナルモ其之ヲ說クヤ西洋ノ生

ハル、人モアルベシ

余之ニ答テ曰ン動物學者中ニハ既ニ分類ニ用ユヘキ一定ノ原理アリ之ヲ活用スルニコソ説ノ異同アリト雖モ其理ニ至テハ今ノ世ニ於テ誰一人モ異存ヲ述フルモノナシ

余ハ漸々ニ此言ヲ解明セン

凡ソ多數ノ物ヲ分類セントスルニハ動物ニ限ラス何物ニテモ其方法實ニ多シ例ヘハ茲ニ千部ノ書物アリトセハ之ヲ分類スルニ其出版ノ國ニ據リテ英佛獨和漢書等ニ分チテ宜シ或ハ其大サニ據リ半紙本美濃本又ハ（オクタボ、クオルト——、デユオデシモ）等ト分チテモ宜シ或ハ其製本ノ風ニ從ヒ和裝洋裝トナシテモ宜シ或ハ其作者名前ノイロハ順ニ列シテモ可ナリ又其論スル所ノ事柄ニ據リテ天文地理、人事、理學、文學、等ノ諸門ニ部分スルモ一法ナリ此ノ外出版ノ年號、作者ノ宗旨、作者ノ男子ナルカ女子ナルカ、代價高低ノ等數ヲ可ラサル点ニ就キ一々右千部ノ分類ヲ施ス可シ

動物ニ於テモ同樣ナリ其大サニ據リ分類スルモ一法ナリ其空氣中ニアリ地上ニアリ水中ニアルトニ就テ分類スルモ差支ナシ或ハ夜中ニ出ルト日中ニ出ルトニ據リテモ可ナリ其他ヒ得ルト否トニ據ルモ宜シ總テ動物ノ種類ハ五十萬モアリト云ヘル事ナレハ其現ス所ノ性質モ亦多ク從テ分類スルニモ數多ノ点ニ據ルヿヲ得ベシ

然ラハ即チ諸動物學者カ各己ノ分類法アルト云フハ皆其見ル所ノ点其據リテ分類スル所ノ点ノ異ナルヨリ起ルヤ決シテ然ラス若シ然ラハ定規アリ原理アリト云フ可ラス動物學者ハ皆同シ点ヨリ動物ヲ分類スルナリ此点ハ何ナルヤ又同キ点ニヨリ分類スルニ何故ニ此ノ如ク説ノ區々ナルヤヲ次ニ解明スヘシ

上ニ述シ如ク動物ヲ分類スルノ方法ハ實ニ數フ可ラスト雖モ概シテ論スル時ハ此ノ無數ノ方法ヲ分チテ僅ニ二種トナスヿヲ得ルナリ則チ

一ハ人爲分類法

二ハ自然分類法

是ナリ人爲分類法トハ凡ソ動物ノ構造機關中其大切ナルト大切ナラザルトニ關セス人ノ最モ見易キ性質ヲトリテ之ヲ分類ノ定規トナスナリ例ヘハ羽翼ハ人ノ最モ見易キ

構造ナリ之ニ據テ羽翼ヲ有スル動物ノ部ヲ分タントセハ蝙蝠、鳥、蜂、蝶、蜻蛉、皆全シ部ニ屬スルナリ地上ニ這フモノヲ一部トナセハ蚯蚓、蛇、百足、毛蟲、等皆同類ナリ之ニ反シテ自然分類法ニ於テハ唯一二ノ構造ヨリ動物ノ部類ヲ定メス其體ヲ解剖シ或ハ其發生ヲ見テ其構造ノ全體ヲ撿シ之ニ據テ大切ナル機官ト大切ナラザル機官トヲ能ク平均シ以テ總體ニ就テ分類スルナリ例ハ上ニ擧タル羽翼ヲ有スル動物ノ中ニ其構造ヲ能ク撿スルトキハ同ク空中ニ飛フ器械ナレモ蝙蝠ノ羽翼ト鳥ノ羽翼トハ全ク異ナリタルモノナリ又蝶、蜻蛉、蜂モ鳥トハ全ク違ヒタル羽翼ヲ有セリ故ニ自然分類法ニ於テハ此等ノモノハ全ク異ナリタル部ニ屬セリ地上ニ這フ者モ是ト同シク蚯蚓ト蛇トハ大ニ違ヒ又百足毛蟲トモ大ニ異ルトコロアリ故ニ自然分類法ニ於テハ此等ノ動物ハ夫々ニ四ツノ全ク異ナリタル部ニ入ルナリ

元來我國ニ行レタル博物書ハ皆人爲分類法ニ據ルカ如シ故ニ上ノ例ニ擧タル蚯蚓、蛇、百足、毛蟲等ハ同シ部ニ入ル、事多シ現今ノ進歩シタル學ヨリ見ルトキハ實ニ拙キ方ナリ泰西ニ於テハ博物學ノ始祖ト稱スヘキアリストトルハ其力ノ及フ丈ハ解剖及其他ノ点ヨリ自然分類法ヲ用ヒタリ以テ其非凡ナルヲ知ル可シ然レモアリストルヨリ降リ中古ヲ經テ近世ニ至ル迄ハ皆拙キ人爲分類法ヲ用ヒタリ尤モ自然分類法ト人爲分類法トハ其區別判然タラス今日ノ學問ノ自然分類法トスル處モ其學稍進ミタルトキニハ人爲分類法ノ如ク見ユルヿアルヘシ例ヘハキユビエ（有名ナル佛國ノ動物學者）ノ分類法ハ當時ノ知識ヨリ見ルトキハ自然分類法ノ最モ進ミタル者ナリシニ相違ナシト雖モ今日ニ至テハ人爲ト見做サルヲ得ス

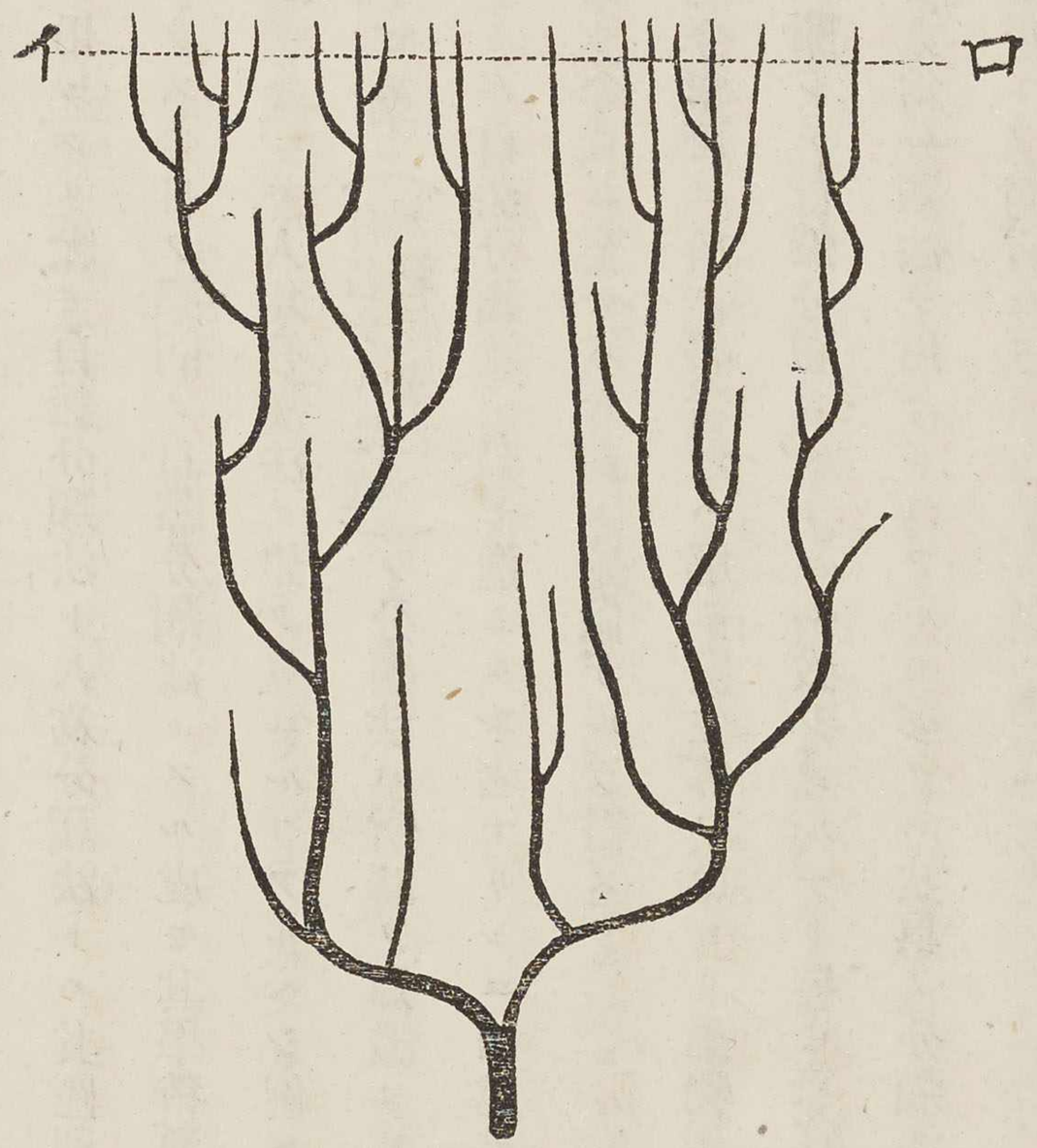
現今泰西ニ於テ學者輩ハ解剖發生等ノ点ヨリ動物ノ總體ニ關シテ自然分類スルヿニ一致シタルナリ譬ヒ事宜ニ據リ人爲分類法ヲ用ユルヿアルモ多クハ其眞ノ分類法ニ非サルヿヲ明言セリ

然ルニ進化論行レテヨリ此自然分類法ニ更ニ甚タ大切ナル意味ヲ附シタリ現今自然分類法ト稱スルモノハ我知識ノ及フ限リハ動物中千萬種ノ系圖ヲ示サントスルモノナリ是即チ余カ先ニ動物學者中ニ分類スルニハ已ニ定リタ

其空氣中ニアリ地上ニアリ水中ニアルトニ就テ分類スル之ヲ分類ノ定規トナスナリ例ヘハ羽翼ハ人ノ最モ見易キ

ル定規原理アリト述タル所ナリ動物書中同シ分類法ヲ用ヒタル書ハ二ツトハナク又同シ書ニテモ初版ト再版トハ異ナル位ニ分類法ハ錯雜シタルモノニシテ千百ノ種類アリトモ其目的トスル所ハ皆一ニシテ動物界ノ系圖ヲ示サントスルナリ

動物ノ系圖トハ何如ナル物ナリヤト問ハル、人アラン天文學ノ說ニ此世界ハ一度全ク瓦斯ヨリ成リ立チシ物ナルガ自然ト冷過シテ固形物ニ變シ遂ニ今日我々ノ生活スル世界ト成リタリト固ヨリ瓦斯ニテアリシトキニハ此世界ニハ生物ハアラザリシナリ今日ニ至テハ地球上動植物ヲ以テ充滿シタリト云モ可ナリ然レハ何百萬年何千萬年前カ知ル可カラスト雖モ此世ニ始テ生物ノ出現シタル時アルヘシ是ハ如何ナル手立ニテ起リシニヤ造物主ノ直ニ手ヲ下シテ造シ物ナルヤ又ハ種々ノ物化合シテ如何ナル有樣ニカナリタルトキ元形質ト云ヘル者ヲ合成シ生物トナリシナルヤ知ル可ラスト雖モ此最初ニ出現シタル生物ハ現今プロトアミバト稱シテ單ニ元形質ノ一塊ヨリ成立タルモノト相ヒ異ナルナキヿハ生物學者ノ皆容ルス所ナリ此元始ノ生物ハ時代ノ移ルニ從ヒ稍複雜ノ構造ヲ有スルニ至リ種々ノ枝ヲ生シ或ハ植物ノ支流トナリ或ハ動物ノ支流トナリ又此等ノ界中ニ枝又枝ヲ生シ千萬ノ種類ヲ生スルニ至リタルナリ其摸樣ハ稍圖ニアルカ如シ是卽チ進化論ノ敎ユル所ニシテ凡ソ生物學者タルモノ、皆信スル所ナリ



第一圖

上ノ圖ニアル木ヲ見ルニ其枝多クアル中ニ其梢下部ニテ

終リタルモアリ是ハ大古ニ存在セシ生物ノ全ク消滅シタヌ可シト雖モ動物ノ系圖ハ如何ニシテ尋子得ベキヤ

終リタルモアリ是ハ大古ニ存在セシ生物ノ全ク消滅シタルモノナリ斯ノ如キ種類ノ多キハ現今ニ存在セザル者ノ多キヲ以テ知ル可シ人類ノ歷史ニテモ羅馬希臘ノ如ク小國ヨリ起リ隆盛ヲ極メ後ニ衰微ニ及ヒ遂ニ全ク滅亡スルニ至リタル國多シ動物界ニテモ同樣ニ始メハ小數ナレ𪜈漸隆盛ヲ極メ後ニハ遂ニ滅亡ニ至リタル種類數フ可ラス故ニ現今此世界ニアル生物ハ古木ノ梢ニ比ス可クシテ圖中ニイロト記シタル線ノ下ニアルモノハ皆死盡シ其上ニアル者而已現今存生セリトセハ珊カ今日ノ動物界ノ有樣ヲ示スニ足ル可シ

然ルニ今ノ動物學者ハ分類法ニ因テ此ノ動物系圖ヲ示サントスルナリ例ヘハ二種ノ動物カ同シ部ニ屬スト云ヘハ同シ先祖ヨリ下リタルト云フノ意ナリ別語ニテ之ヲ云ヘハ動物ヲ親類眷屬ニ從テ列セントスルナリ

此分類法ハ自然ニ適ヒタリト雖モ其用ヒ難キヿ判然タリ

現今存生セル動物ハ大木ノ稍ニシテ其幹及大枝ノ如キハ地下ニ埋ルトセハ如何ナル手段ヲ以テ其枝ブリ即チ其系圖ヲ檢スルヲ得ルヤ若シ一家ノ系圖ナラハ古キ書物ヲ尋ヌ可シト雖モ動物ノ系圖ハ如何ニシテ尋ヲ得ベキヤ幸ニシテ近世動物學大ニ進歩シ動物ヲ細密ニ研究スルヿハ古キ書物同樣ニ古キ事ヲ知リ得ベキ事實アルヲ見出シタリ

當今動物ノ系圖ヲ見出サン爲メ學者ノ依リテ賴ミトスル所ノモノハ先ツ左ノ三ケ條ニアリ

一　化石物
二　比較解剖
三　發生

（以下次號）

儒教と東洋開化との關係を論す

日高眞實

夫社會なるものは瞬間時も變遷して止ざるものなれは、政治に從事するものハ、此變遷を良善なる方に向けて、其退歩するをを妨ぐべし、社會は常に變遷するもの故に、一日にても進歩するか退歩するの外なかるべし故に若退歩せざれば必ず進歩するものなり、故に退歩せざるをを謀るときは、必す進歩するを得べし、進歩をせず退歩もせざるとは、決してこれなきなり、野蠻時代よりして始て政府

の起りたる時には、其政府の結構作用（ストラクチュルフランクション）極て純一にして社會の進歩をすると共に漸〻に分化して庖雜なる地位に至るが故に、政府の結構作用の庖雜に至ることを妨るものは、政治の進歩を障碍し、隨て社會の進歩を障碍することと明なり、儒教は政府の結構作用の庖雜ふ至るを助勢したりや、抑亦之を妨たるや、余ハ勿論庖雜なること自らを善なりといふまもあらず、又惡なりといふにもあらざるなり、余のいふところハ進歩したる政府ハ其結構作用必ず庖雜なり、又理論上より之を推すも亦然り、即ち進歩したる政府ハ斯くなくむはあらざるなり、故に進歩したる政府ハ至るにハ必ず其結構作用庖雜に至らざるべからさるなり、故に庖雜に至ることを妨碍するハ則ち進歩したる政府に達することを妨碍するなり、

儒教の政治學者ふ願ふことろのものは何ぞや、世を堯舜の代の如くするふ外ならざるべし、堯舜禹湯の代になかりしことを爲が如きは、儒者の尤諱とところなり、孔子が說ざりしことを爲すも亦彼輩の尤諱むところなり、言をかへて之をいへば、儒者ハ改修することを忌ものなり、是故ふ王安石の政策は特に古昔を慕ふことをのみ知る腐儒の爲に破られしなり、歐陽修、韓琦、蘇軾、蘇轍の輩安石を目して姦邪の人となし、以爲く毒を天下ふ流すと安石は他黨の人なり、故に常に之を退けんとす、安石の策に少々の弊害あるを見て、王安石の策は非なりといふのみ、安石の黨の人ハ復司馬光、歐陽修、蘇軾、蘇轍等を目して極奸の人社會の進歩を妨碍して堯舜禹湯の不充分なる代に挽回せんとす、國家の爲人民の爲早く此輩の首を斬て以て市に暴し、斯る愚昧の說を立る者を除かずんばあるべからす、之れを除くハ吾輩の義務なりといはんとす、若し東洋に司馬歐陽韓蘇の如きの輩なからしめを今日ふ至りては或は東洋開化ハ遙に西洋の右に出でたるやも知るべからす、夫れ物に溺るゝものハ狂人に異ならす、狂人の必死の力を出すや其力平日に勝りて尤恐るべきなり、宋の時に當て史乘に著ハれて後儒ふ尊重せらるゝ、程のものは多く儒教ふ惑溺して、狂人なるものなり、狂人斯の如くそれ多し、其必死の力を窮るや亦尤も恐るへきなり、安石ハ黨此狂人の爲に擊破せらるゝこと東洋社會の不運なり豈傷し

からずや、若し此輩をして英國にあらしめは、蒸汽車發其說の偏屈なる、以て見るべし、此輩をして西洋に充滿せ

からずや、若し此輩をして英國にあらしめは、蒸汽車發明の時に當りても、之を發明したるものは毒を天下に流したり、何となれぞ、旅人宿、茶漬屋、荷物運搬人等一時ハ幾分の害を被りたれどなりといへんとす英國にも此輩ありしなれとも其力の少かりしは天下の幸なり、瓦斯燈を發明したるもを見ては、此者奸邪毒を天下に流したり、何となれは、蠟燭屋に於て幾分の損害と受たればなりといはんとす、而して斯の如きの便利なる蒸汽車瓦斯燈と共に之を破毀して用ひざりしならん、現今支那に於てハ、猶此の如きの形狀なりと尤慨むべし、此輩や何ぞ自ら謀計畫圖する所の遠く安石の策の下に在るを知らんや、余嘗て一儒と見る、先生曰く、近來政府ハ王安石の時の政府の如し、些細の事に至るまて撿査して餘すところなし、實に遺憾の至りなりと、余は此輩の遺憾の至りなりといふを遺憾の至とするなり、今の代猶此の如きの輩あり、今程開化せざりし時に在てハ此の如きの愚説を唱ふる輩の多きこと鏡に掛て見が如し此輩の讀む所の、儒教の書のみにして異端の書を見ることを欲せず其心の小量なる、其説の偏屈なる、以て見るべし、此輩をして西洋に充滿せしめは、今の如きの開化に至るを能ハざりしなるべし、王安石の如きは實に古今に卓絶するの政治家として可なり哀しひ哉其政策の行ハれざりしこと、余按するに、儒者の尤盛に其數の尤多き其尤勢力を得しを宋朝に若くはなし、而して其害を受たる亦宋朝に若く者なし、故に今例を宋朝に取るのみ、頑々たる儒者は猶司馬光、歐陽修、韓琦、蘇軾、蘇轍等を目して宋朝の大臣となして尊重するなるべし、是怪むに足らず、何となれぞ、其心は彼韓子二程子朱子等の腐説を信して疑はされば、古の不開化なる野蠻なる時代を慕ふて進歩したる社會を卑め、堯舜禹湯文武の爲したるより以外の事をなすことを忌で、彼腐説に奴隷となりたれぞなり、此腐説に適合するものを以て忠臣となし、適合せざるものを以て不忠臣となし。以て得たりとなを然れとも惟悲む是忠臣なるものは政府の進歩して、其結構作用の庖雜なることを非として、古昔の如く其純一なることを暴ひしなり、而して彼儒者の所謂不忠臣なるものは、是忠臣の所爲に反して、古昔の事

へて之をいへば、儒者ハ改修することを忌ものなり、是故狂人の爲に擊破せらるゝこと東洋社會の不運なり豈傷し

に拘泥せず、新なる策を用ひて、社會を進歩するに向たるなり、儒者の政治の進歩を妨碍したること尤大なりといふべし、故に儒者の所謂忠臣は余よりして之を視れゝ大不忠臣にして所謂不忠臣は大忠臣なりゝなるを明なり右の如く儒教は非常に古を慕ふの風を養成したるを、今更深く論するに及ばざる事なり、若し堯舜世をして非常に開化したる代ならしめは、之を欽慕するも尙可なり、然れども余ハ今試に儒教に心醉する者に問はんとす、能く心を醒して思ふべし彼の時の學問の進歩ハ近代の學問の進歩よ孰ぞや、彼時の財産の多きは近代に孰ぞや、彼時の農工商の盛大なるとは、近代に孰ぞや、彼時は政府及ひ社會の結構作用の庖雜にして、其活動力の大なるとゝ近代に孰ぞや、若し其庖雜なるをハ近代に及ぜず然れども庖雜なるは純一なるに如ずといハゞ、即是開化を忌み嫌ひて野蠻を好むなり、今夫れ徒に古を慕ふは、即ち開化を嫌ひて野蠻を好む也、而して儒教ハ古を慕ふの風を養成ーたりとせば儒教の弊たる大なりといふべし、政府を古の風よ復せんとするが如きハ愚も亦甚ー、社會の事悉く儒者の意の如くならざりしハ、余輩實ふ歡喜に堪ざる所なり、古を貴ひ慕ふの風盛に行ハれたる故ふ、其弊害を蒙るもの多ー、固より政治上に止らざるなり、例へは教育法の如きも、古の風に順はんとするよ至る、昔は顏回さへ「一簞食一瓢飲」にーて「飯疏食飲水曲肱」て臥しれハとて、今の子を教ゆるものと其飲食物の如きハ決して心ふ介せず、何ぞ子を教ゆるに飲食と擇ぶの要は遠く書を擇ぶの要に勝るを知らんや、事よ遇へは古を以て之を、論ず其弊いふに堪へざるものあるなり

儒教の道德を以て政治と混したるは、亦實に惡弊を來せーー者なり、儒者以爲く、帝王の身修れは政は勞せすして治る者なりと、勿論帝王たる者は、道德を愼まざるべからざるは、言を待すといへども、政は道德のみを以て治むへからざるものなり、政學なるもれあると以て見るべし、法律學政治學等の十分に東洋にて起らざりーこと多く儒教の弊よ因ると信ずるなり、此説より起る所の弊害蓋し亦少々にあらざるなり、外國人を夷狄なりとて卑るハ、是亦儒教の遺弊なり、日本にてハ既ふ此弊ハ地を拂て去りたるより後は徒に古を慕ふの風を除ひて理論を貴ぶの風を

如くなれども、支那にては猶此弊ありと聞く、亦是量の小

如くなれども、支那にては猶此弊ありと聞く、亦是量の小なる故なり、この念より起る所の害も極て大なるべけれども、茲に之を論ずるに遑あらず、

第八節　儒教の親を愛し子を慈み、朋友と交りてい信といふ等の如きい、眞に明説にして、之を破ることを能はざるは勿論、皆人の從はざるべからざる所たり、然れども蓋し儒教ありて然る後に之を知るにあらず人と生れてい種々内外の刺衝を受け進化の理ふよりて出來るものにして、開化したる社會には假令儒教い行れざるも皆ある所なり、然れども儒教は明に人の當に行ふべきの道を確定して、人の心を堅固にしたるなり、勿論其確定したる事の中にも、今日ふ至りてい環象も異ることなれど、改めざるべからざるの点なきよもあらざるなり、

儒教の利益も幾分かありたるべけれども其弊害と及ぼしたる所亦前ふ論したるが如し、今公平なる心を以て其利害を斷定するときは、儒教の世に益したる所い遙に世に害したる所ふ及ばざるなり、

右論ゑ來りし如く、古來儒教の害を受たること尤多し、今より後は徒に古を慕ふの風を除ひて理論を貴ぶの風を養成せざるべからざるなり、儒教現在の知識を以て善良と認むべき部分のみを餘して、其不善良なる部分は悉皆之を擊破し、古人の奴隷となることを惡んで、古人を以て己の奴隷となし、古の不充分なる説に心醉するをと卑るの氣象を養はずむば、東洋遂に西洋の右ふ出ることと能いずして、常ふ西洋人に奴隷視され決して頭角を出すことと能ハざるべし、儒者が如何程西洋人と目して夷狄といふとも、工業も商業も智力も極て進歩せざる東洋なれば、三才の童子が大人を謗るに異らざるべし大人益此童子を痴人視して顧るをなきに至るべし、教育を盛大にし身体い壯健強日大ふして、智は爭て新奇の説を出し、競ふて新奇の發明をなし、道德を正くして農工商として進歩繁盛せしむることを圖らざるべからざるなり、此時や儒者に遠慮して古來の説に從順し齷齪として東洋社會進歩の遲ふするを袖手傍觀すべきの際にはあらざるなり、

雜報

○理醫學講談會　同會は今期ふ於ては三會を開き去る廿

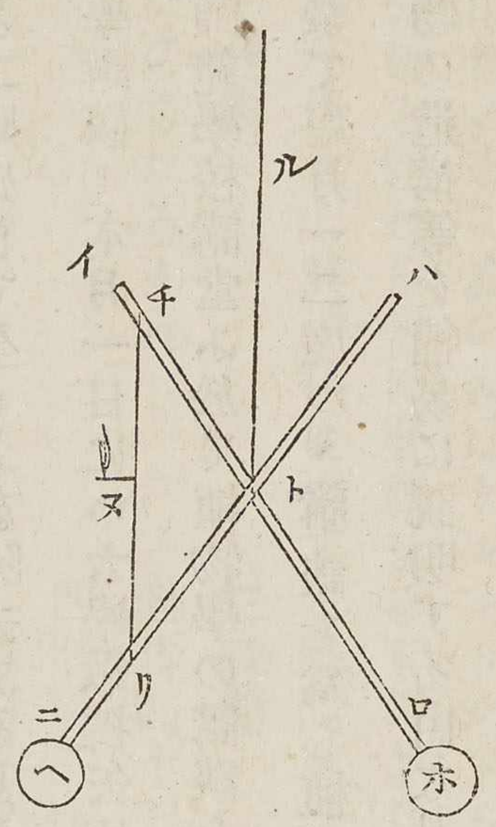
一日か即納會なりー本月一日即第二會には櫻井錠次君炭素の變化、村岡範爲馳君人の發音の理を講說され又第三會には矢田部良吉君花と蟲との關係久原射弦君水の分析を講せられ何れも皆平素研究さるゝ學科中の事がらを誰にも解ー得る樣に試驗を施し實物を示し圖書を揭けて面白く說明されたれは每會の聽衆は場に滿ち謹て之を聞き大に益有るをと悅ふ由殊ふ聽衆中婦人も有り少兒の敎育も重に慈母に依ることなれは婦人の斯の如き會に來聽さる、はこの上もなきことにこそ

○東京數學物理學會　同會ハ是まて東京數學會社と稱ー來りしか今度名を改め又大に社則を變革ーたる由今其大略を聞くに事務は五名の委員に任ー內一名を委員長とし他は會計、記錄、通信等のことを分擔ー又五名の編纂委員を置き本會記事を編纂し每年三回以上之を發行す又雜誌報告委員を置き內外諸雜誌中本會に有益の事項を報告せしむ等なりと

○東京大學敎授外山正一君は群馬縣下の有志敎育者の招に應ーて本月一日ふ上州高崎へ出張せられて同所第一公立學校ふ於て普通敎育と專門敎育とは各人に必要なるをを演說せられ且つ今日に在りては普通敎科中に外國語を加へんとは最も必要なる中ふ取分け高崎人の如く外國人と熾に交際せねばならぬ者に在りてハ普通に外國語を學ばんとは今日の急務なるをを說かれたり、又同氏は東京敎育談會の求に應じ去月廿五日に明治會堂に於て敎員が研究會を興してそれ〳〵學科を研究するの必要なるを演說せられたり、又同日本所區江東學校へ臨まれて、學術演說をせられたり、是は本所深川聯合敎育會より每月一回づゝ心理學の講義を同氏に依賴せられたる爲なる由なり、

○單一ノ物理試驗　「カント」及ヒ「ラプラス」氏の開闢論（コスモゴニー）ふ於て重要なる「回轉する物体內力の作用に據りて軸ふ近つくときハ其回轉速度增加す」と稱する定則を証するの簡法左の如し

圖の如き「イロ」及ひ「ハニ」なる棒の端に「ホ」及ひ「ヘ」なる重物を付け「ト」の邊に於て穴を穿ち共有の軸を造り糸にて天井より釣り下け又「チリ」なる糸を以て棒を叉形に張



第二圖

り「ヌ」なる小火繩を付し試驗を施すの前「ヌ」より火を点し然る後「ル」を軸として全裝置を回轉せしむるときハ火「チリ」に達して之を燒き切るや否や「ホ」「ヘ」相近つき回轉速度增加するなり○此試驗には鋏を用ふるも可なり（ウヰーデマン氏理化新聞）

○ヂュマー氏　理學社會にて其名を博したる佛國ハ有名なる化學士ヂュマー氏は去る四月十一日カーンに於て八十四年の長壽にして長逝せりこれ化學を研究するものゝ取りてハ勿論理學社會一般の爲にも亦一大不幸の至りなり氏の略傳ハ次號ふ於て之を報道すべし

○化學命名法取調　化學命名法ハ一定せざるハ何れの國ふ於ても此學ふ從事するものゝ常ふ憂る所なるが今度我邦に於て用ゆべき命名法を一定せん爲め東京化學會譯語會より撰擧されたる委員五名が此事に從事せらるゝと云ふ扨て其委員ハ東京大學の松井、久原、高松、櫻井、の四氏及び東京師範學校の磯野氏なる由

○英國理學奬勵會　同會の事ハ屢〻本誌に記載せゑが本年ハ既に報道したる如く米國カナダ洲モントレールに於て開會し又明年ハ蘇國アベルディンに於て開會する由其節の會長にハリオン、プレーフェヤ氏が撰擧さるべしと云ふ氏ハ曾て化學を彼の有名なるリービッヒ氏ふ就て學び英國の一大化學士なるが其後同國々會議員に撰擧されて力を教育の事に盡されたる學術事務共にその達人なり

○リービッヒ氏石像の汚點（しみ）除去　近頃獨乙國ミュンヘン府ふ建設したる彼の有名なる化學家リービッヒ氏の石像か客年十一月に於て甚しく汚點を生せしを以てミュンヘン府廳ハ同府の大學校化學教授ペッテンコッフェル氏及びバイエル氏と博士チンメルマン氏の三氏に汚點の性質檢定と之を除去するの方法を依賴したるに此三氏ハ彫像家の石像を洗淨するに主として用ひしものハ硝酸銀と過

招に應じて本月一日ふ上州高崎へ出張せられて同所第一

「マンガン」酸とよーて實に其所爲なるをと發見せり此汚點も既に大理石をして數「ミリメートル」の深よ腐蝕せりと掇て此三氏は百方考按を施ー大理石の片塊を以て汚點を除去するの法に付試驗を重ね遂に石面を毫も損傷せずして全く之を除去するの法を發明して其實功を擧くるよ至れり蓋し銀及び「マンガン」を其硫化物とし之を青化「ホタシユム」液に溶解せしむるにあり此法を石像に施したるに細粉の陶土を以て粘塊を作り之を硫化「アモニアム」よて抱和せしめて之を石像の汚點に塗り二十四時間靜置したる後粘塊を遠け再び新鮮のものを以て塗り又之を靜置すると一日間其後粘塊を去り汚點を水よて洗滌したる後青化「ホタシユム」の抱和液を混交せる粘塊を以て汚點を塗るを二回にして全く之を除去するをを得たりと

○植物學講談　本月一日にハ大學教授矢田部良吉氏は浦和驛の師範學校講堂ふ於て植物學の講談を爲したり氏ハ同處に於て毎月一二度づゝ講談を爲し植物の細胞組織、下等植物の造構等を簡易に說明する由なり本月一日ハ其第一回にて植物學一般に關する事を緒言として演述し終に臨みて氏ハ植物學の套言を六ヶ敷漢字に譯するより寧ろ原語を用ふるの便なるを說き中學校師範學校等よ於ては益々外國語殊に英語を教授し日本人をして外國の事情に通せしめ西洋風の開化に誘導するふ非れば歐米諸國と共よ進步することハ到底難かるべーと迄に述べたる由なり

○瑞典圖書館の日本書　先年ノルテンショールド氏が北洋航海の歸途我邦に逗留中集められー諸般の日本書は積んで五千冊餘の多に至りしが歸國の後之を本國ストックホルムの圖書館に獻納せられたり而して其目錄の編輯は彼の有名なる日本語學者佛人ドローニー氏の手に成りて只書名のみを記載せず細かに分類をなし且つ篇目大意等を加へあれハ最と貴重なるものなりと云ふ其中理學上の書は甚多からずして數學天文等に關はる書は百四冊又博物書は四百四十七冊なりと

○獨乙虎列刺委員　コッフ氏始め他の虎列刺委員ハ印度夏期の酷熱に堪へ難くして探究ふ便ならざるを以て一先歸途に就かれたりと然し何れ來冬ハ復び該地よ來り引續

さて彼緊要なる研究をせらるゝを云ふ

○過酸化水素の効用　此物ハ今を距ること六十六年以前

きて彼緊要なる研究をせらるゝを云ふ

○食物消化の表　左の表はケンシングトン氏の編纂にて食物の分析と題せる書に登載せるものより普通の食用品廿種を撰み出だし其消化に要する時間を示すものなり

炙たる牛肉	三時間
搗漬肉の煮たるもの	四時間十五分
豚肉	四時間三十分
雞肉	二時間三十分
小鳥類　家鴨	三時間
鵞	三時間三十分
鰻	二時間三十分
鯖	二時間
生蠣	二時間五十五分
生雞卵	二時間
煮たる雞卵	三時間
牛乳	二時間十五分
米	一時間
大麥	二時間
大豆	三時間
蕎麥	四時間
常用麵包	三時間
燒馬鈴薯	二時間三十分
蕪菁	二時間三十分
胡蘿蔔	四時間

○過酸化水素の効用　此物ハ今を距ること六十六年以前より發明せられしも餘り應用の少きものなりしか近年に至りて其稀薄なるもの即ち百分中約そ三分と含有するの溶液ハ廉價に且つ多量に製出し得へくして其効用も亦少くとせず彼の通常使用するの漂白劑も時として之を漂白することと能はさる動物質の物品も此液を以て能く其目的を達し得へしヂュー〻及ヒペテンコッファルの兩氏は之を油繪及ヒ雕刻画の掃除に用ゐて好結果を得又疫癘豫防藥としては最も實功ある貴重の液体なり又此溶液に兩三滴のアムモニヤを加へて之を浴すれと直に死皮を蝕殺すれども反て活皮を健壯ならしめ善く人躰を清潔にし洗齒藥としてハ遙ふ他の齒磨類に優り酒精或は石鹼を調和したるものハ洗髮液として其功僅少ならすと云ふ

○充治雜誌、學淵叢誌　充治雜誌は誌中會說寄書雜記詞林の四欄あり學淵叢誌ハ哲學理學政治法律經濟等の論說あり共に有益の好雜誌なり

雜　錄

○燐光の原因

矢田部良吉

頃者隱花植物ふ關する事を記載せる獨逸の雜誌ヘドヴィギヤを一讀し燐光即ち夜中有機躰より發する光輝の說明を見たり左に其要領を揭く

學士ルドヴィヒ氏は數年魚及ヒ獸肉より發する燐光を研

究せーに全くミクロコックス、プフリゲリと稱する一種の細微植物（シッォミッェテス類に屬すバクテリウム及ひバチルス等も亦之に屬す）の存在するに因ることと發明したり

光輝を發する所の魚獸は肉上に存し粘質にして洗除し得べき腐塊ハ其燐光を他の物躰即ち吸墨紙及ひ手指等ヨ傳るを得べきものヨして主としてミクロコックスの盛ヨ分裂增加するに因る而して此植物ハ血核性肺病の原因たるバチルスを染むるヨ用ふる所の染料即ちヴォイゲルッ氏の混和染料を用ひて之ヨ着色し始て分明に見るを得たり其形圓狀にして一個の細胞を以て成り其細胞分裂し二個或ハ數個相連續し又連續したるもの集合ーて細胞塊を成す一個細胞の大さは直徑ミリメートルの二千分の一より千分の一に至る

此植物の存在するヨ非れば燐光を發することなく又燐光の擴大するは此植物の增加ヨ因らざることなし最初には此植物小塊を成して肉上ヨ散在し星形の燐光を發セと雖も後には速に增殖擴大して全肉盡く光輝を放つに至る魚に在ては主として鱗及び眼に增殖す

又燐光ハ稀薄なる鹽水を灌けゞ愈々熾なり鹽水と以て燐光躰を洗ふときい水に光輝を傳ふると得而して其若干分の酸素を包含し腐敗を起さゞる間ハ光輝を失ふことなしルドヴィヒ氏は此の如き燐光水を壜中ヨ入れ栓を以て堅く其口を閉ちたるヨ半時間にして光輝を失ひ八時間の後壜を振盪せしに光輝又舊に復ーたり一日を經過したる後には壜中の空氣を全く用ひ盡したるが故に振盪すれども光輝を發ぜざりき第二日に至り壜を開き水を皿中に灌きたり此時とても水はミクロコックス、プフリゲリの特殊の臭氣を帶びたり夜に入り此水又光輝を放ち壜中に殘る所の水も亦搖振するごとに光輝を發したり第三日に至りては此水通常の腐敗を起し腐卵樣の惡臭を生ーて其光輝甚微々たり第四日には光輝全く止みたり

又ルドヴィヒ氏はミクロコックスを獸肉に播植して其生長の試驗を爲したり氏は小刀を以てミクロコックスの塊の小部分を截取ー獸肉の中に播種するを常法としたり前に云ふ所の燐光水を肉ヨ灌くも好結果を得るを少なし氏が試驗の大略左の如し明治十五年十一月二十六日に貝肉より取りたるミクロコックスの小塊を豚、犢、牛の鮮肉に種へたり此貝肉は星形の燐光を處々に放ち未だ全躰に燐光を發するヨ至らざるものなりき十一月廿七日には右三種の肉皆播種したる處に燐光を發ーー同月廿九日には全部皆光輝あり殊に豚肉ハ最も甚し十二月一日には三種の肉の光輝愈々熾なり同月四日五日に至りても光輝尙存すと雖も頗る減少したり又同月一日には右の肉より取りたるミクロコックスを以て又新鮮なる三種ヒ肉に種へたるに其結果前述のものと同一なりき但し同月四日には豚肉の脂肪部氷結ーたれども光輝は之が爲に毫も減少せざりき

乳汁、唾、尿、汗の光輝を發するも亦右と同一なるミクロ

コックスに因るや否や未だ充分なる研究を經ざれども乳汁に至りてハ原因同じからざるが如しルドヴィヒ氏はミ

由々敷ことならずや

醉史云ふ如何さは禽獸を以てくらぶるときハ人間

コックスに因るや否や未だ充分なる研究を經ざれども乳汁に至りてハ原因同じからざるが如しルドヴィヒ氏はミクロコックスを乳汁中に種〳〵が其特殊なる臭氣を帶ぶるに至れども光輝を發せざりき又右のミクロコックスは鹽水に依て其光輝を增すと以て見れゞ海魚の燐光も亦之ハ因るならんか

○

答咄々醉史　天台道士の左右に侍する一書生

醉史は東京輿論新誌第百六拾四號より我師天台道士の鬼哭子を讀むの文を載せて之を非難したり

醉史と其名の如く醉眼を以て鬼哭子を讀まれしにや其眼光の紙背に透らさるは申迄もなく或ハ紙面にも達せさるかと疑とる〻なり先つ第一に些細なから我師の號は天台道士よて天台居士よハ非を

醉史は册の小なると價の廉なるとに驚かれたる由蓋し古今圖書集成の如き書物を好まる〻人にや

太公周公の例に就きて御不審ハ兩公を地下より呼起して其說明を乞はるべし道士は只た國勢を比較する爲めよ引用せられたるのみにて功を尙へハとて必す簒弑の臣ありと云ハれたるハ非す親を親めはとて必す國か衰弱すると云はれたるよ非す若し太公周公の言はれたるところ百發百中何國に於ても一般に應用すべきものならん歟醉史こそ大に功を尙び且つ親をも親まる〻人なれハ簒弑の臣を生する上に國の衰弱するとを好まる〻の譯なれハ實以テ由々敷ことならずや

醉史云ふ如何さま禽獸と以て人よたくらぶるときハ人固より禽獸に如かさるを多しと併し人を以て禽獸にたくらぶるときに禽獸の人に如かさるを多しとも云ひ得るなりさて人の禽獸ハ如かさることゝ禽獸の人に如かさることゝ孰れか多き差引き勘定して人の禽獸に如かさること多きか或は同等なるときは此等の人物は已に禽獸以下の人なり道士は此等の人に說教せらるゝに非す禽獸以上の人に說教せらるゝなり

醉史解醒の後再讀せは餔糟歠醨の憾なかるべし

○

此頃淺間山發焰記を讀しに客年クラカトア破裂後の顯象よ稍似たるありよりて世ハ氣象學を修ゑ給ふ君子の參考の一助にもなりなんかと思ひ書寫して貴社に投す

淺間發焰記は何人の筆記にや不學なれハ知らす

南海漁夫誌

淺間嶽發焰記

天明三年卯の水無月末の九日ハ雨降てれやみたれとなを（モトノマヽ）きりこめたるやうにてうち散るは何ならんと視れふた扇なとにうけて見れは灰なりやかて草木の葉にかゝりて霜のれきたるかごとしこは信濃なる淺間嶽もゆるといひのしるさあることは伊勢物語にもいひれき今はたたまさかにもあることなれハ人も見なれてれとろかす文月二日また降りいでこたびハ薄雪のことくさえたる月夜のごと

しかくあるはことゝ豐年のしるしなりとてとくさふいふめるをれはやけのいみたまふことなりなむといふ人もあれとさしあたりさあることなけれはいたう心つかう人もなしゝた五日の午過る頃また鳴出て板戸ふすまにひゝきたれゝ又もや灰のふるらんとみるにいかめしき雲の一村たちれほふひて乾れ方へなひきたるまてにて事なくて日暮にけり夜も明て六日れ朝またきれき出てみれゝ庭もまかきも白妙に木草みな花咲たることく雪の朝のけしきにていとめづらかなるなかめなりれはきむまや路なれは家々より出てかきよせたこに入れ箱にもり又は俵にして裏脊戸へはこび入る空は名殘なくゝれて日かけいとあつし今年は三伏も時ならす涼しかりしに此まゝよてひよりつゝきなゝ稻ゝよくしけりなんといふ程に未のなかゝ過る比又鳴出るこたびはいつ〳〵よりもゝけし立出て見れは子午は晴ゝたりいぬよりたつへ黑雲たなひき行さき目のはてもなし此烟の行方ゝいつこまてか降りつらむ遠近人のみやそとかめむと詠しはかくれそろしき雲にゝあらし思ひにもゆる烟の立のほる程にそありけらしなといふちに雲ひろかりて黃昏過る頃さら〳〵とふりいてたるそ夕立にやと思ふほとにさゝなくくして砂ふることれひたたし空はうゝ玉ゝやみの中よりいなつまひらめきわたりてはけしからすといふ程こそあれいかつちれとろくしう鳴ゝためきあさまかたけよりもゑあかるほのほは柳櫻の散かかることとし夜もすから砂降いかつち鳴やますいぬもやらてれきあかして七日よなりぬつとめてみれはさきの夜ふりわたるよりゝあらき白砂たかくつもりて板屋れ石も見へぬはかりに埋りたんりゆきゝのさはりなれはとてかきあつめたれは門々よ時ならぬ雪の山作り出せりこゝろのよはひにかうやうのことはいまだ聞も傳へす寶永の比富士の燒たるもかくやありけんされとさかひゝるかにへたてつれは此あたりにかゝることありとも聞す人〻打寄てたゞあやゝくといふうちに午の半も過る比にはかに日暮にけり

臨赴獨逸留別諸子　井上巽軒

歲之甲申春二月。滿城梅花香飄馥。吾以此時整行李。孤年欲向泰西發。草餘新詞未推敲。讀殘之書皆亂拋。好爲三身不鳴鳥。喋々何必解人嘲。苟有誠心無不遂。泣神驚鬼亦容易。世上毀譽不遑論。自今只當成我志。水閣會友開別筵。美人勸酒弄管絃。清唱一曲倒金壺。歌扇舞衫紅亂旅。丈夫何酒兒女淚。須傾巨盃取歡醉。吾志一決屹如山。勿說海外風土異。君不見獨逸之國太盛昌。武威桓々稱至强。賢哲況復不知數。恰如聚星爭德光。我今渡萬里波濤遊其地。一世俊髦欲盡把臂。嗚呼泡影之名蠅頭之利何足云。天下快樂莫勝此事。

學會記事

○東京化學會記事　五月十七日午后二時より例場に會す」萬年會より同會報告第五輯十二卷幷に附錄第六輯第一卷及ひ第二卷を、農商務省工務局より同局月報第十四號より十七號迄四冊を、工學會より工學叢誌第二十七卷を本會へ寄贈せられたり」客月本會へ入會を申込れたる中村貞吉、志築岩一郎、緒方三郎、清水鋏吉、堺和爲昌、高嶺讓吉、杉田玄端の七氏は本日出席正員の授票を以て入會を差許されたり」從來の譯語委員を廢し更に二十名を撰舉せんことを議決す然れども本日ハ出席會員の數多からざるを以て總在京會員の投票を以て之を撰むをに決す」石藤豐太氏大石保吉氏の樟腦油ふ關ゑゝる論文を讀む次に安藤格氏簡易紺染法に關し演說す」本日出席會員十八名なり

同二十八日役員立合の上會員三十六名の投票を開封す當撰者は即ち左の如し

松井直吉　高松豐吉　櫻井錠二
高山甚太郎　久原躬弦　植田豐橘
織田顯次郎　高須碌郎　磯野德三郎
石藤豐太　杉浦重則　河喜多能達
坪井九馬三　中川謙二郎　渡邊讓
宮崎道正　松本收　上原六四郎
喜多村弥太郎　高峯讓吉

然レ𪜈獸類ハ總シテ五本ノ指アルモノナリ馬ノ類ノ如キ